

## 30日にOEK定期公演

寄稿・飯尾洋一

オーケストラ・アンサンブル金沢の第372回定期公演(北國新聞社特別協力)は30日、金沢市の石川県立音楽堂コンサートホールで開かれる。音楽ジャーナリストの飯尾洋一さん(金沢市出身)が聴き手として寄稿した。

今シーズン、オーケストラ・アンサンブル金沢の「マイスター・シリーズ」(全5回)には、「ショパンと友人たち」という一見意外なシリーズ・タイトルが添えられている。ショパンといえば「ピアノの詩人」。純然たるオーケストラ作品は一曲も書いていない。なぜ、そんなテーマを?

実はショパンはオーケストラ伴奏(つき)のピアノ曲を6曲、作曲している。有名なピアノ協奏曲第一番と第二番以外の4曲は決して演奏機会に恵まれていないが、それらも含めてシリーズ全体で6曲を取りあげようというのがひとつの狙いだ。30日の公演では、「お手をどうぞ」の主題による変奏曲作品2と、演奏会用ロンド「クラコヴィアク」作品14の2曲が演奏される。とくに作品2は若きショパンの才能を知らしめることになった重要な作品。シューマンがこの曲の出来栄に驚嘆して、自ら主筆を務める音楽新聞に「諸君一脱帽せよ、天才だ」とショパンを称えた逸話は広く知られている。

もうひとつ、シリーズの鍵となっているのが「友人たち」。1810年生まれのショパンには、互いに切磋琢磨する同年代の音楽家の友人たちがいた。一歳年上にはメンデルスゾーン、同年生まれに

## 論理と情感 融合のショパン

シューマン、一歳年下にはリスト。これだけの才能が集中して誕生し、「ロマン派」の一時代を築いた。シリーズを通してこれらの友人たちの作品をショパンとともに取りあげ、時代の空気を伝える。今回は、メンデルスゾーンの壮麗な傑作、交響曲第五番「宗教改革」が組み合わされる。

指揮を担うのはマティアス・パーメルト。スイス出身の大ベテランで、古典か

異色の気鋭と  
ベテラン共演

ら現代音楽まで幅広いレパートリーで実績を持つ。ピアノは1989年ドイツ生まれのアレクサンダー・クリッヒェル。わずか22歳でソニー・クラシカルと専属契約を結んだ気鋭である。数学の分野でも将来を嘱望され、奨学金を得てハンブルク大学に学んだという異色の経歴を持つ。論理と情感を高度に融合させたショパンを聴かせることができるだろう。

(いとお・ゆいち)



ピアノのアレクサンダー・クリッヒェル

指揮者のマティアス・パーメルト

## 石川県立音楽堂

第372回定期公演は午後2時開演、S席5千円、S席4千円、A席3500円、B席2500円、スターライト席1千円。県立音楽堂チケットボックス＝076(232)8632＝まで。

